

藤本 和颯 個展

FUJIMOTO Waca solo exhibition

-以前は鯨でした -私も

- I was a whale - Same here

KUNST ARZT では、昨年に引き続き藤本和颯の個展を開催します。藤本和颯は、鯨をテーマに、絵画と陶芸を用い、生活と表現を考察するアーティストです。鯨油のみで描いた鯨油彩画（おそらく唯一無二）の連作、紐の部分に草木染めを施した“鯨ヒゲの道具”、合成鯨蠟のろうソクとそのためのオリジナルの陶器の燭台などで構成する構想です。鯨食が国際的な批判の対象でもある一方、縄文時代からあった日本文化の一つであるという背景を踏まえることで、また違う見方ができるかもしれません。

(KUNST ARZT 岡本光博)



経歴

2001年 沖縄生まれ
2022年 成安造形大学 芸術学部 美術領域 卒業

展覧会

2024年「クジラは宇宙前夜になる whales getting Inflation」(KUNST ARZT/京都)

2025年4月8日(火) から 13日(日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

-以前は鯨でした-私も
- I was a whale - Same here

アーティスト・ステートメント

リビングの照明を付け、冷蔵庫から今晚の食事を用意する日もあれば、ロウソクの明かりを灯し、自前で食料を手に入れた日もあった。生活は変わってゆくが、以前それだったものはどこへいったのだろう。炭鉱夫が少ない油から多くのロウソクをつくったように、合成鯨蠟のロウソクをつくる。鯨油で絵を描き、鯨ヒゲの箒で埃をはらう。鯨だったものは生活に溶け、再びかたちつくられる。つまりは鯨も宇宙も我々も、非同時的な、変形を続ける出来事の集合なのだろう。



これ等大地は珊瑚礁
2022



「クジラは宇宙前夜になる (2024)」 展示風景より
下2点も。

